
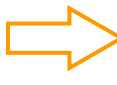


外為マンスリービューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2015/08/03

金融政策の変更期待と主要国株価が柱に

通貨ペア	基調		ページ数
豪ドル/円		根強い追加利下げ期待がベース 予想レンジ: 87.500 ~ 92.600 円	2 - 3
NZドル/円		「9月利下げ」の後押し材料が追い風 予想レンジ: 79.500 ~ 84.500 円	4 - 5
ランド/円		米ドル主体の動きに 予想レンジ: 9.400 ~ 10.500 円	6 - 7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

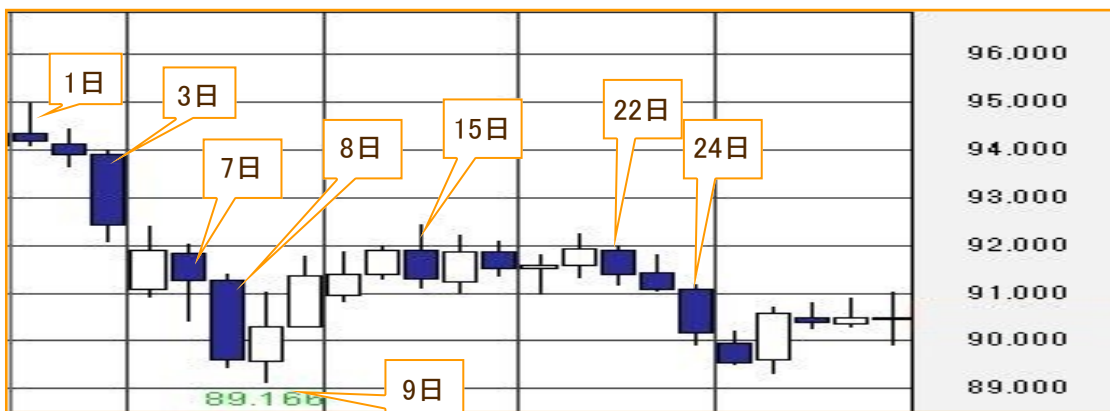
Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

豪ドル/円 7月の推移

AUD/JPY

7月の豪ドル/円相場は89.166~94.980円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約4.1%の下落(豪ドル安・円高)となった。

月初の豪ドルは、上海株の大幅安やギリシャ支援についての先行き懸念が強く、リスク回避ムードが強い中で売り優勢となり、89.166円まで一時値を下げた。しかし、中国政府当局の株安対策などが奏功して中国株が切り返した上、ギリシャ支援問題にも進展が見られた事からその後は反発。もっとも、豪州の金利先安感が根強い中で92円台では頭が抑えられ、中国指標の弱めの結果などを受けて再び軟化。全般的なコモディティ価格の軟調ぶりも豪ドル/円の重石となった。



四本値

OPEN	94.348
HIGH	94.980
LOW	89.166
CLOSE	90.509

1日	豪5月住宅建設許可件数が前月比+2.4%と市場予想(+1.2%)を上回ると、豪ドル高が進行。さらに、ギリシャ情勢の進展期待から欧州株が上昇した事も追い風となり、豪ドル/円は94.980円まで一時上昇した。
3日	豪5月小売売上高が前月比+0.3%と予想(+0.5%)を大きく下回り、前月分も下方修正(±0.0%→-0.1%)された事を受けて豪ドル/円は失速。また、中国で主要市場に上場する20社以上の会社が3日から新株募集や資産再編、事業計画などを発表するまで株式の取引を一時停止すると発表され、上海株が大きく値を下げた事も押し下げ要因になった。その後も、5日にギリシャで行われる緊縮策受け入れの是非を問う国民投票を控えて欧米株が軟調だった事も下押し圧力となった。
7日	豪中銀(RBA)は政策金利の据え置きを発表。声明では、「豪ドルは今後下落する公算」「政策が効果的か依然検討している」「インフレ率は引き続き目標に沿った水準に留まる見通し」「金融政策は緩和的であるべき」「住宅価格はシドニーで大幅に上昇。他の地域はマチマチ」「中国とギリシャの状況、ソブリン債利回りに影響してない」などとした。今後の追加緩和についての踏み込んだ示唆がなかった事から発表後の豪ドルは上昇。ただ、ギリシャの支援交渉について不透明感が強い中で徐々にリスク回避ムードが強まると、豪ドル/円は失速した。
8日	日経平均が安寄り後も下げ幅を拡大する中で豪ドル/円は下落。さらに、上海・深センの売買停止銘柄が1300以上になり、上海株が大きく売られる中で豪ドル/円は一段と下値を切り下げた。
9日	安寄りした日本株が下げ幅を拡大すると豪ドル/円は89.166円まで下落。しかし、その後発表された豪6月雇用統計が、失業率6.0%(予想:6.1%)、雇用者数変化0.73万人増(同:±0万人)、正規雇用者数2.45万人増(前月:1.47万人減→1.51万人減)、非常勤雇用1.72万人減(同:2.73万人増→2.49万人増)、労働参加率64.8%(予想:64.7%)と概ね良い結果だった事から豪ドル/円は上昇した。さらに「中国警察当局が悪質な空売りを調査」などの報道を受けて上海株が大きく反発すると、豪ドル/円は上値を伸ばした。
15日	中国4-6月期国内総生産が前年比+7.0%(市場予想:+6.8%)、6月鉱工業生産が前年比+6.8%(同:+6.0%)、6月小売売上高が同比+10.6%(同:+10.2%)と予想よりも強かった事で92.429円まで上昇。しかし、上海株の軟調を受けすぐに頭を打った。その後、NZ乳業大手フォンテラのGDT物価指数の低下を受けてNZドル/円が下落すると豪ドル/円も連れ安した。
22日	豪4-6月消費者物価指数が前年比+1.5%(予想:+1.7%)、前期比+0.7%(同:+0.8%)と、予想を下回った一方、基調インフレ率が前年比+2.3%が予想(+2.2%)を上回った事で発表直後の豪ドルは乱高下。ただし、徐々に豪ドル売りが優勢となった。さらに、RBAのステーブンス総裁が「追加利下げの是非は議論の対象となっている」「豪ドルは調整中であり、景気拡大を促す効果がある」などと発言すると、利下げへの期待が高まり、一時91.197円まで下押しした。
24日	中国7月財新製造業PMI・速報値が48.2と市場予想(49.7)を大きく下回った事を受けて豪ドル売りが強まった。

AUD/JPY

日経平均

OPEN	20291.05
HIGH	20850.00
LOW	19115.20
CLOSE	20585.24

NYダウ平均

OPEN	17638.12
HIGH	18137.12
LOW	17399.17
CLOSE	17689.86

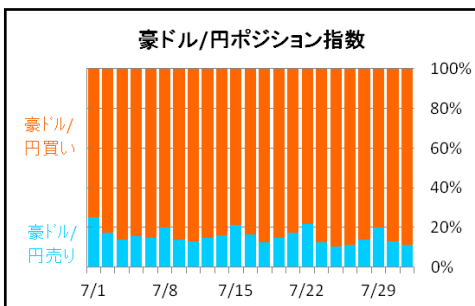
上海総合指数

OPEN	4214.150
HIGH	4317.053
LOW	3373.540
CLOSE	3663.725

豪10年債利回

OPEN	3.055%
HIGH	3.117%
LOW	2.683%
CLOSE	2.758%

7月のポジション動向



8月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

- ・豪6月貿易収支(4日)
- ・豪6月小売売上高(4日)
- ・RBAキャシュターゲット(4日)
- ・豪7月雇用統計(6日)
- ・日銀金融政策決定会合(6~7日)
- ・米7月雇用統計(7日)
- ・RBA四半期金融政策報告(7日)
- ・中国7月貿易収支(8日)
- ・中国7月消費者物価指数(9日)
- ・日4-6月期GDP・一次速報(17日)
- ・RBA議事録(18日)
- ・中国8月財新製造業PMI・速報(24日)

8月の見通し

8月4日の豪中銀(RBA)キャシュターゲットに関しては市場の大半が金利据え置きと予想しているものの、一部に利下げ予想があるなど、豪州は依然として追加利下げ観測が根強い。上海株が政府のテコ入れにも関わらず冴えない状態である事や、原油や金などのコモディティ価格が軟調な状態が続いている点なども豪ドル/円には重石となっている。ただ、7月22日時点でスティーブンスRBA総裁は「現時点では金融政策のバランスは適正」としながらも「追加利下げは議論の対象となっている」などと発言しており、8月の理事会声明で「9月以降の利下げの示唆」があるかどうか注目される。声明文が7月と代わり映えないものとなれば一旦豪ドル/円は上昇しそうだが、今後の利下げ期待が雲散霧消する可能性は低く、上値は限られるだろう。一方、9月利下げへ向けた踏み込んだ示唆があれば、継続的な下げに繋がると見る。

また、中国の株価の動向や、コモディティ価格には引き続き注目する必要がある。特に原油価格が原油の供給過剰観測が根強い中で一段と下値を切り下げれば、豪ドルにとっても大きな重石となるだろう。

下げた場合、7月安値89.166円を割り込むと、2014年2月安値88.230円が次のターゲットとなる。ただ、豪ドル売り要因が重なり、大きく下げるような局面に入った場合、昨年2月安値を割り込むと2013年8月安値86.399円まで下げ余地が拡大する。この点も意識しておくべきだろう。(石川)

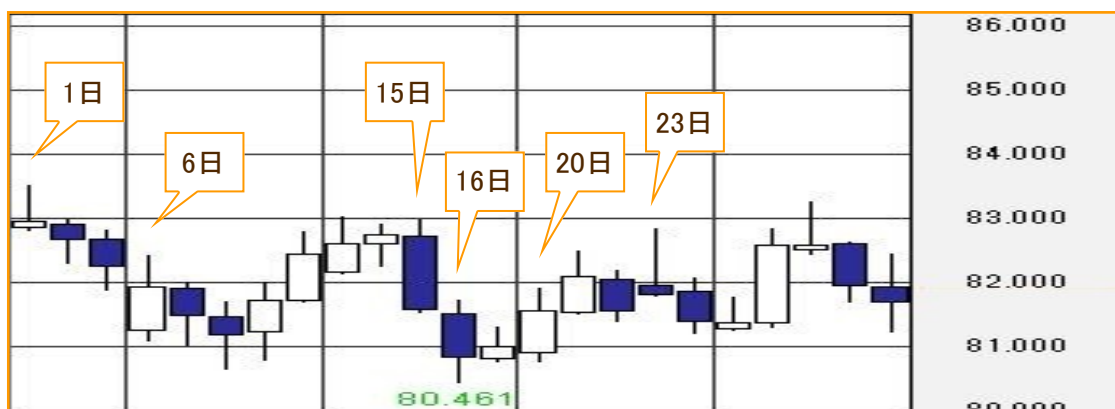
(予想レンジ: 87.500~92.600円)

NZドル/円 7月の推移

NZD/JPY

7月のNZドル/円相場は80.461～83.527円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約1.4%の下落(NZドル安・円高)となった。

月初は、ギリシャ支援問題の先行き不安や中国株の大幅安などを背景に、軟調に推移。中国株が中国政府当局の株安対策などによって切り返し、また、ギリシャに関してもツィプラス・ギリシャ首相が6月26日に欧州委員会が提案した改革案に酷似した内容の改革案を提案した事が伝わり、この問題に関する進展期待が高まってリスク回避ムードが緩和した事から、NZドル/円も月半ばに向けて反発した。ただ、NZ乳業大手フォンテラの電子入札GDTの物価指数の弱い結果やNZの4-6月期消費者物価指数の弱めの結果などが上値を圧迫。ただ、その後、キーNZ首相やNZ中銀(RBNZ)の通貨安誘導的スタンスが緩んだ様子が伺える状態になると、NZドルは底堅く推移してた。



四本値

OPEN	82.876
HIGH	83.527
LOW	80.461
CLOSE	81.718

1日	一部で関係筋の話として「ツィプラス・ギリシャ首相は救済の条件の大半を受け入れる用意がある」と報じられ、ギリシャ情勢の進展期待から欧州株が上昇すると、NZドル/円は83.527円まで一時上昇。しかし、上昇は続かず、NY市場にはNZ乳業大手フォンテラの電子入札GDTの物価指数が前月比-5.9%と、8回連続の低下となった事などが重石となって上げ幅を縮小した。
6日	ギリシャで5日に行われた、緊縮策受け入れの是非を問う国民投票で「否(NO)」が多数を占めた事を受け、ギリシャ情勢の先行き懸念が広がり、リスク回避の動きから週明けのNZドル/円は窓を開けて下げてスタートした。ただ、一時マイナスサイドに値を沈めていた上海株が切り返すと、NZドル/円も切り返した。
15日	中国4-6月期国内総生産が前年比+7.0%(市場予想:+6.8%)、同6月鉱工業生産が前年比+6.8%(同:+6.0%)、同6月小売売上高が同比+10.6%(同:+10.2%)と、軒並み市場予想よりも良好な結果だった事を受けてNZドル/円は上昇。しかし、上海株が軟調だった事ですぐに上伸力を失い、その後NZ乳業大手フォンテラの電子入札GDTの物価指数が前月比-10.7%と9回連続の低下となった事を受けて失速した。
16日	NZの4-6月期消費者物価指数が前年比+0.3%と予想通りだったものの、前期比が+0.4%と予想(+0.5%)を下回ると、NZドル売りが加速し、80.461円の安値を付けた。
20日	キーNZ首相が「NZドルは予想よりも早く下落した」と発言すると、NZドル高・円安が進行した。
23日	RBNZは市場予想通り0.25%の利下げを発表した。声明では「政策金利の引き下げは経済見通しや低インフレの軟化により正当化される」「現時点では幾分の追加緩和の可能性が高いと思われる」「NZドルは4月から著しく下落した」「ただ、NZドルの下落は輸出や輸入の競合部門を支援する」「輸出商品価格の下落を考慮すると、さらなるNZドルの下落が必要とされる」と、NZ安誘導的な文言や追加緩和への姿勢が和らいだと看做され、NZドル/円は上昇した。

NZD/JPY

日経平均

OPEN	20291.05
HIGH	20850.00
LOW	19115.20
CLOSE	20585.24

NYダウ平均

OPEN	17638.12
HIGH	18137.12
LOW	17399.17
CLOSE	17689.86

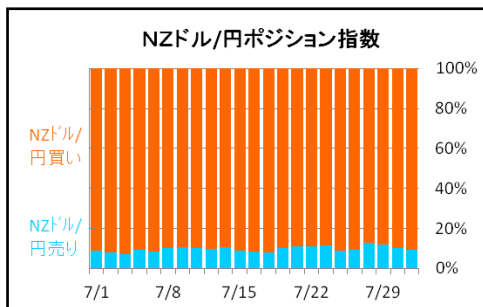
上海総合指数

OPEN	4214.150
HIGH	4317.053
LOW	3373.540
CLOSE	3663.725

NZ10年債利回

OPEN	3.613%
HIGH	3.656%
LOW	3.209%
CLOSE	3.349%

7月のポジション動向



8月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

- ・NZフォンテラ入札(4日、18日)
- ・NZ4-6月失業率(5日)
- ・米7月雇用統計(7日)
- ・日銀金融政策決定会合(6~7日)
- ・NZ4-6月期小売売上高(14日)
- ・NZ4-6月期生産者物価(19日)
- ・中国8月財新製造業PMI・速報(24日)
- ・NZ7月貿易収支(26日)
- ・主要国株価、国際商品市況

8月の見通し

8月はNZ中銀(RBNZ)は理事会を行わないが、9月10日開催の理事会での利下げ期待は高く、すでに出ているエコノミスト予想を見ると、大半が0.25%の利下げ(3.00%→2.75%)を見込んでいる。7月は一旦「利下げへのトーンが緩んだ」と看做されたものの、依然として追加緩和期待は根強いようだ。市場のこうした期待を補強するような、弱い経済指標や物価関連指標などはNZドルを売るきっかけとされそうだ。また、中国など主要国の株価やコモディティ価格の動向は引き続き注意が必要だ。特に主要国株価が崩れるようだと、円買いが引っ張る形でNZドル/円が下値を切り下げる事も起こり得る。

7月16日につけた安値80.461円を割り込んでしまうと、2013年10月以来の80.00円割れが意識される。80円台前半は2012年6月安値57.960円から2014年12月高値94.031円までの上昇に対する38.2%押しの水準(80.252円)も位置しており、下値は相応に堅そうだが、もし割り込んでしまうと下げ余地が2013年に何度かサポートされた75.00円前後の水準まで切り下がってしまう。下げた場合は80.00円前後が正念場と言えそうだ。(石川)

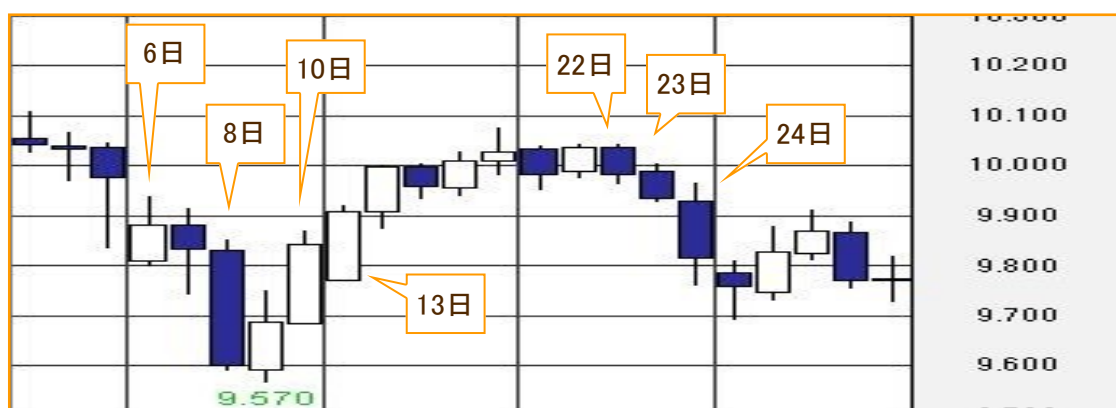
(予想レンジ: 79.500~84.500円)

ランド/円 7月の推移

ZAR/JPY

7月のランド/円相場は9.570～10.109円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約2.8%の下落(ランド安・円高)となった。

月初はギリシャ支援協議の先行き懸念や中国株の大幅下落を背景とする全般的なリスク回避ムードが広がる中でランド/円は9.570円まで下落。しかし、その後は中国当局の株安対策などによって中国株が切り返し、またギリシャ支援問題にもギリシャ側の譲歩によって進展が見られると、こうしたリスク回避ムードが後退し、ランド/円は反発した。ただ、上昇も10.00円台で頭打ち。南ア中銀(SARB)の利上げもランド高要因にほとんどならず、中国経済指標の弱い結果を受けたリスク回避の動きが圧迫要因になって再び軟化。下旬は為替相場全般的に米ドル主導で動く場面が目立つ中でドル/円とドル/ランドの狭間でランド/円には大きな方向感が出ず、9.700円前後から10.00円台でのみ合いとなった。



四本値

OPEN	10.057
HIGH	10.109
LOW	9.570
CLOSE	9.775

6日	ギリシャで5日に行われた、緊縮策受け入れの是非を問う国民投票で「否(NO)」が多数を占めた事を受け、ギリシャ情勢の先行き懸念が広がり、リスク回避の動きから週明けのランド/円は窓を開けて下げてスタートした。ただ、一時マイナスサイドに値を沈めていた上海株が切り返した事もあり、ランド/円も切り返した。
8日	日経平均の下落や、上海・深センの売買停止銘柄が1300以上になり、上海株が大きく売られる中でランド/円は大幅安となった。
10日	ギリシャ政府がユーロ圏に対して日本時間10日未明に提出した新提案が年金制度や付加価値税などに踏み込んだ内容で、欧州委員会が6月26日に提案した案と酷似していると報じられると、リスク回避ムードが緩和し、ランド/円は堅調に推移した。
13日	12日に開催されたユーロ圏首脳会議において、ギリシャ支援協議が週明けのアジア市場開始までに合意に至らず、早朝はリスク回避の動きが強く、ランド/円は下落してスタート。しかし、その後にユーロ圏首脳会議がギリシャ支援について「合意」と報じられるとこれを好感して日経平均先物などが上昇し、ランド/円は値を上げた。
22日	南ア6月消費者物価指数(CPI)は前年比+4.7%(市場予想:+5.0%)、コア指数は同+5.5%(同:+5.7%)と市場予想を下回った。しかし、ランドの反応は限られた。
23日	SARBが市場予想通り政策金利を0.25%引き上げて6.00%とすると、発表直後のランド/円は上昇。しかし、主要国株価が下落する中でクロス円が全般的に下落すると、ランド/円も軟化した。なお、クガニャゴSARB総裁は「コモディティ価格の下落によってランドは抑制されている」「ランドがCPI見通しの著しいリスク」「インフレ期待やランド安、賃金の上昇によってコアCPIは上昇」などとコメントした。
24日	中国7月財新製造業PMI・速報が48.2と予想(49.7)を下回った事などを受けてリスク・オフムードが広がると、ランド/円は下落。さらに、欧州市場で仏・独・ユーロ圏の7月PMI製造業・速報が予想を下回る結果でユーロ/ドル主導でユーロ安・ドル高が進むと、ドル/ランドでもドル買い優勢となり、ランドは相対的に下落。ランド/円はそうした中で下値を切り下げた。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

日 経 平 均

OPEN	20291.05
HIGH	20850.00
LOW	19115.20
CLOSE	20585.24

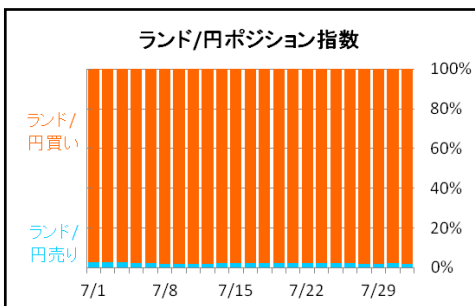
NYダウ平均

OPEN	17638.12
HIGH	18137.12
LOW	17399.17
CLOSE	17689.86

N Y 金

OPEN	1172.40
HIGH	1174.40
LOW	1073.70
CLOSE	1095.10

7月のポジション動向



8月の注目ポイント

- ・米7月雇用統計(7日)
- ・日銀金融政策決定会合(6~7日)
- ・日本4-6月期GDP・一次速報(17日)
- ・南ア6月実質小売売上高(19日)
- ・南ア7月消費者物価指数(19日)
- ・日本7月通関ベース貿易収支(19日)

月間指標カレンダー(外部リンク)

- ・南ア4-6月期GDP(25日)
- ・南ア7月生産者物価指数(27日)
- ・南ア7月貿易収支(31日)
- ・主要国株価、国際商品市況

8月の見通し

7月のSARB理事会では政策金利を5.75%から6.00%へ引き上げた。発表時の記者会見および声明文では2016年始めにもインフレ率がターゲット(3-6%)の上限を上回ると予想している事を示すなど、引き続きSARBのインフレ警戒感強い。また、通貨安懸念が強く、米国の利上げをもってランドが相対的に大幅に下がり、交易条件が悪化する懸念を示している。ただ、クガニャゴ総裁のタカ派よりのスタンスはやや緩和した様子も見受けられており、長期的には利上げ継続と考えられるが、ペースは早いものにはならないと見る市場関係者が多い。将来の利上げを織り込むような動きは当面期待できそうにない。一方、日本円サイドにも目先の金融政策変更期待は低い。従って、当面のランド/円は、米ドル主導の為替相場の中で、ドル/ランドとドル/円が綱引きしあって方向感が決まるという、極めて主体性に欠ける相場になりそうだ。

ただし、主要国株価が堅調に推移すれば、全般的にクロス円が上昇する中でランド/円も上昇、という動きになる事はあり得る。対ドルでの円とランドの動き、そして主要国株価の動向をしっかりと確認しながら取引したいところだ。(石川)

(予想レンジ:9.400~10.500円)